

「アジア山岳民族宣教交流会」 趣意書

(ASIAN MINORITY PEOPLE MISSION NETWORK)

一．設立の目的

アジア山岳民族宣教交流会(AMPMN)は、大宣教命令(マタイ 28:18 - 20)に従って、アジアの山岳地帯に住む各民族のクリスチャンが、主イエスの愛に根ざして弟子訓練をなし、自ら力を尽くしてキリストの体なる教会を建て上げて行けることを願う個人または団体が、自主的に山岳民族を支援する中で、賛同者同士が互いに祈り合い協力し合うことを目的とする。任意的な集合体ですから、そこにはいかなる制約も強要もありません。

マタイ 28:18-20 に基づく山岳民族宣教交流会の活動

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

聖書の中心は、イエス・キリストです。主イエスが救いの業を成し遂げ、地上最後の生涯を終えられ天に召されるに当たって、残された重要な言葉が上記の大宣教命令です。命令が書かれているマタイ 28:19-20 の中には 4 つの動詞が含まれます。

行って、弟子とせよ。

バプテスマを授け、教えなさい。

1．行く

山岳民族宣教交流会は、アジアの山岳地区に焦点を置いて、御霊に促されて山間地帯の各少数民族の居住地に出て行きます。宣教の歴史や時代の流れを見る

とき、福音はエルサレムから始まり、ユダヤ、サマリヤの全土、そしてヨーロッパを通り、アメリカ、アジア...そして、地の果てまで伝え告がれます。^{*1}

21 世紀の現在は福音宣教の中心としてアジアに焦点が置かれています。アジアには、世界の人口が集中していること、福音を阻む悪の霊との戦いの場として共産圏、仏教圏、ヒンズー圏、そしてイスラム圏があります。

日本は同じアジアに在りながら物質主義の虜となり、今日に至るまで福音の恵みから遠く離れて来ました。同国人を思う時、出て行く前にまず霊的に飢え渴ききった同胞に愛の業をなし、総動員して国民を改心に導けるほどの伝道をしなければなりません。

と同時に、物質的な豊かさを享受する日本人クリスチャンの果たすべき重要な役割があります。貧困と差別により、劣悪な環境の中に取り残され、苦しみつづ宣教に励む山岳地帯の少数民族への援助です。

日本人による山岳民族への霊的、物質的援助がどれだけ急務であり、効果的な働きであるかを良く理解するためには、まず出て行って、悲惨な現状を見聞することです。そして、支援を実行することによりわたしたち日本の教会が世界宣教の働きの重要な一端を担っているのだという重大な使命を確認できます。

世の終わりが来る前に、エルサレム宣教によるユダヤ人の回心が起こります。こうして全ての民に福音が宣べ伝えられ、主イエス・キリストが再臨され、神の愛とすばらしい永遠のご計画が成就します。

主な活動の紹介

a. 海外宣教サポート国家・地域

日本、韓国、北朝鮮、モンゴル、中国、香港、マカオ、台湾、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジア、タイ、マレーシア、インドネシア、ネパール、インド、スリランカ...

b. 伝道支援献金、里親制度への協力、援助物資の供給、海外短期宣教旅行の企画など

2. 弟子とする

弟子とするために一番良い方法は、キリスト御自身の模範を見習う事です。キリスト・イエスは、弟子とするために徹夜の祈りを捧げ、天の父にお願いし、弟子となる人々を召し集めました。そして、そのキリストの御声に聞き従う人々を弟子としたのです。キリストは、弟子達を呼び寄せて、弟子たちと共にいるようにしました。生活を通してイエス様は、弟子たちに教えたのです。弟子造りのための最も優れた方法は、共にいることです。

アジア山岳民族宣教交流会は、山地教会と日本人のクリスチャンと連携を深めるため、山岳民族の学生センター（生徒宿舎）への援助、日本語教室の開設、教師派遣、自立支援プロジェクトである有機農場の協力支援、工場誘致などの事業を推進、協力して行きます。山地の少数民族が抱えている深刻な社会問題は、麻薬栽培と中毒患者、人身売買と売春です。これらの問題から引き起こされているエイズ問題への取り組みも、いまだに解決すべき問題となっています。共にいて主を証しする道を探っていきたいとおもいます。

3. バプテスマを授ける

「バプテスマを授けなさい」というのは、伝道してキリストを心に受け入れた人々を天の父、御子、聖霊の名により神の家族となったことを宣言する事です。このことは、全ての作られたものにこの福音を伝える事を意味しています。罪に対して、義に対して、そして裁きに対して教えてください。聖霊の導きにより、悔い改めと罪の赦し、そしてキリストの死と復活を語る必要があります。相手が聞いてくなくても聞く耳を持たなくても、語り続けなければいけません。キリストはこの福音伝道の働きを、私たちにさずけてくださいました。

アジア山岳民族宣教交流会では、文書伝道を支援します。これは、個人伝道、路傍伝道、友達伝道など様々な方法と共に、時代に合う有効な方法であると思っています。

4. 教える

教える事は、教会の役割の最も大事な部分です。聖書の全てを教える事を目指して、創世記から黙示

録までを学ぶ必要があります。その為には、週に一回だけの礼拝メッセージだけでは、不十分です。

アジア山岳民族宣教交流会の働きの一部として、教会開拓があります。その第一歩として週に6回の集会を持ち、ほとんど毎日集まり、朝5時半よりデポジションや礼拝をし、創世記から黙示録まで聖書の学びができることを目標としています。

二. 三つの活動

アジア山岳民族宣教交流会には、三つのおもな活動があります。

- 1) 祈りととりなし
- 2) 日本語教育を通した伝道活動
- 3) ビジネスを通した海外宣教

1. 祈りととりなし:

天の父の御心を知り、その御声に私たちが聞き従う事ができます。祈りを通して山岳民族の必要を理解し、より具体的な福音宣教の働きをなすことによって、神様の御栄光を表わします。

2. 伝道:

全ての造られたものにキリストの救いを証しし、福音を伝える大宣教命令の働きです。その一環として、日本語教育を施して山間民族に福音を伝えます。

単一国家である日本人が外国人とのコミュニケーションを取ることが難しい理由は、英会話を始め、語学に長けていない点です。1対1で個人伝道をするにも心を開いて人の顔を見ながら悩みを聞いてあげたり話したりすることは、外国語を習得することの下手な日本人としてなかなか難しい現実です。

アジア山岳民族宣教交流会は、どのように識字教育を図り、日本語を媒介として伝道する事が出来るかを示すガイドを作ります。

3. ビジネスを通した海外宣教:

山岳民族の住むアジアの国々には、共産主義国やイスラム国が含まれています。これらの国には、宣教師としては、活動が出来ません。その他の国々で

も宣教師ビザを取ることは難しいことです。

キリストは、全ての創られたものにこの福音を伸べ伝えなさいと教えてくださいました。福音を伝えるために上記の国々に入る方法は、主として短期滞在が可能な観光ビザかビジネス・ビザを通してです。

日本人のビジネスマンは、世界を制覇する勢いを持って日本の商品を世界に広めました。日本はビジネスの国として、先進技術を有しておりますし、アジアで経済的に立ち遅れている国々も、自国の近代化のために日本のテクノロジーを利用しようと願っています。そのため、それらの国々において日本のビジネスのノウハウを宣教の道具として使う事ができます。宣教師だけが福音の伝達者ではありません。決して霊的な先進国とは言えないまでも、日本がアジアのなかで先進国家の立場にあることは事実です。この世の終わりの時代に、日本のクリスチャンがビジネスを通して世に仕え、貢献できることは、神の救いのご計画の一端を担うものであると確信します。

地域社会に仕える

アジア山岳民族宣教交流会は、私たち自身の事だけを考えるのではなく、地域社会に奉仕し、地域の自立発展に役立つ業がなされる事を願っています。キリストの名によって善行を行う事により天の父に栄光を帰す事ができます。^{*2}これは、伝道をするための一つ的手段として利用するのではなく、実際的に地域に仕えることを目的としています。

三．教会堂建設ビジョン

彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。(使徒 2:42)

そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。(使徒 2:46-47)

- 1．各地で山岳民族のクリスチャンが集い、自分の民族語で霊的な礼拝を守れる教会堂を建てる。
- 2．福音浸透化に必要な伝道的なモデル教会を建てる。

3．民族の自主性を回復し、自立強化を目指す教会を建てる。

4．各少数民族とキリストにある友好協力関係を強化推進できる教会を建てる。

5．次期世代を担う青少年(生徒宿舎の学生を含む)の中から山地教会を指導できる献身者を育成する。

^{*1}しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。使徒の働き 1:8

^{*2}このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。テトス 2:14